

【校長室便り】

No. 3 6

H30年12月7日(金) 土佐町小中学校 谷内宣夫

小中学校課メールマガジン「パートナー」第135号より
(H26 高知県教育委員会)



・・・(略)

ある小学校を訪問する機会をいただきました。

帰りの会の時間になって。

ある子どもが先生に質問をしています。



「先生。どうして、子どもはそんなに勉強しないとい
けないのですか？」



先生は何と切り返すのだろう、

どのように応えるのだろうと興味津々。

先生は丸椅子に腰かけ子どもたちに語り始めました。

「みんなも知っているように、オオカミは鋭いキバを
もっています。そして、このキバを使って獲物をとって

生きることができました。でも、サルはキバや尖った
爪といったものを持っていません。でも、ちゃんと生き
続けています。

サルはどのようなことをして
生きてきたのでしょうか？」



子どもたちも真剣に考えいろいろと答えを出します。

そのうち、「スイミーじゃない」との声。

これを受け、先生は再び続けました。



「そう。スイミーと一緒に。サルはみんなが集まること
によって、敵から身を守ったの。サルは集団でいること
で生きてこられたのね。でも、集団であり続けるため

には、自分勝手をしてない、させない集団のルールが

必要で、同時に、みんなはこのルールを学ばないとい

けないの。そう、サルは『学ぶ』という習慣・習性

を身につけることによって生き続けることができたの

ね。」子どもたちは驚いて声をあげます。



「えっ！サルが勉強するの？」

「そう。サルも勉強するのよ。そして、私たち人間はその
根っこを探っていくと、サルに行き当たると言われている
の。だから、私たち人間は『学ばなければならない存在』
なの。学ぶことをやめた時、私たち人間はオオカミに食べ
られてしまうかもしれません。」



子どもたちの目に「勉強する！」

との火が灯ったのを見せていただいた瞬間でした。

そして、「先生の哲学はすごい」と脱帽しました。

『勉強する理由』を子どもたちとじっくりと考え、話し
合ってみることも面白いのではないのでしょうか。

僕がもっと真剣に娘と哲学をしていたら、「何故、学ば
んといかんか」を語っていたら、彼女ももうちょっと勉強
する人間になっていたのかもしれない。

申し訳ない父親です。【小中学校課長 長岡 幹泰】

という話が掲載されていました。

中学生は期末テストが終わり、ちょっと一息つくこの時に、
「なぜ私たちは学ぶのか？」考えてみてはどうでしょうか。

児童・生徒の皆さん「どうして学ぶのか？」考えてみて下

さい。また、保護者の皆さんもお子さんと一緒に
話しあってみていただきたいと思っています。



「なぜ学ぶのか？」が難しかったら、視点を変えて逆に、

「もし学ぶ機会がなかったら」「学校で学ばなかったら」

「人間が誕生してから、たくさんの方が発明されたり、

考えられたりしてきています。もしそれらの知恵や技術

がなかったとしたら人間はどんな生活をしていたでしょ

う？また、どうなるのでしょうか？」等々、

様々なことをお互いに考え、意見を交換し、

保護者の皆さんの経験から、お子さんにいろんな話を語

っていただきたいです。

よろしくお願いいたします。

